

参考とすべき基準	流山市の基準（案）	参 考
<p style="text-align: center;">道路構造令</p>	<p style="text-align: center;">流山市道の構造の技術的基準を定める条例（案）</p>	
<p style="text-align: center;">（昭和四十五年十月二十九日政令第三百二十号）</p>		
<p>（この政令の趣旨）</p> <p>第1条 この政令は、道路を新設し、又は改築する場合における高速自動車国道及び一般国道の構造の一般的技術的基準（都道府県及び市町村道の構造の一般的技術基準にあっては、道路法（以下「法」という。）第30条第1項第1号、第3号及び第12号に掲げる事項に係るものに限る。）並びに道路管理者である地方公共団体の条例で都道府県及び市町村道の構造の技術的基準（同項第1号、第3号及び第12号に掲げる事項に係るものを除く。）を定めるに当たって参酌すべき一般的技術的基準を定めるものとする。</p>	<p>（趣旨）</p> <p>第1条 この条例は、道路法（昭和27年法律第180号）第30条第3項の規定により、市が管理する市道を新設し、又は改築する道路の構造の一般的技術基準を定めるものとする。</p>	
<p>（用語の定義）</p> <p>第2条 この政令において、次の各号に掲げる用語の意義は、それぞれ当該各号に定めるところによる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 歩道 専ら歩行者の通行の用に供するために、縁石線又はさくその他これに類する工作物により区画して設けられる道路の部分をいう。</li> <li>2 自転車道 専ら自転車の通行の用に供するために、縁石線又は柵その他これに類する工作物により区画して設けられる道路の部分をいう。</li> <li>3 自転車歩行者道 専ら自転車及び歩行者の通行の用に供するために、縁石線又は柵その他これに類する工作物により区画して設けられる道路の部分をいう。</li> <li>4 車道 専ら車両の通行の用に供することを目的とする道路の部分（自転車道を除く。）をいう。</li> <li>5 車線 一縦列の自動車を安全かつ円滑に通行させるために設けられる帯状の車道の部分（副道を除く。）をいう。</li> <li>6 付加追越車線 専ら自動車の追越し用に供するために、車線（登坂車線、屈折車線及び変速車線を除く。）に付加して設けられる車線をいう。</li> <li>7 登坂車線 上り勾配の道路において速度の著しく低下する車</li> </ol>	<p>（定義）</p> <p>第2条 この条例において使用する用語の意義は、道路法及び道路構造令（昭和45年政令第320号。以下「政令」という。）の例による。</p>	<p>政令で定めることとなっている。</p> <p>本市の実態に該当しない基準の部分は、見え消しとした。</p>

— 両を他の車両から分離して通行させることを目的とする車線をいう。

- 8 屈折車線 自動車を右折させ、又は左折させることを目的とする車線をいう。
- 9 変速車線 自動車を加速させ、又は減速させることを目的とする車線をいう。
- 10 中央帯 車線を往復の方向別に分離し、及び側方余裕を確保するために設けられる帯状の道路の部分を用いる。
- 11 副道 盛土、切土等の構造上の理由により車両の沿道への出入りが防げられる区間がある場合に当該出入りを確保するため、当該区間に並行して設けられる帯状の車道の部分を用いる。
- 12 路肩 道路の主要構造部を保護し、又は車道の効用を保つために、車道、歩道、自転車道又は自転車歩行者道に接続して設けられる帯状の部分を用いる。
- 13 側帯 車両の運転者の視線を誘導し、及び側方余裕を確保する機能を分担させるために、車道に接続して設けられる帯状の中央帯又は路肩の部分を用いる。
- 14 停車帯 主として車両の停車の用に供するために設けられる帯状の部分を用いる。
- 15 軌道敷 専ら路面電車（道路交通法（昭和35年法律第105号）第2条第1項第13号に規定する路面電車をいう。以下同じ。）
- 16 交通島 車両の安全かつ円滑な通行を確保し、又は横断する歩行者若しくは乗合自動車若しくは路面電車の停留場等に設けられる島状の施設を用いる。
- 17 植樹帯 専ら良好な道路交通環境の整備又は沿道における良好な生活環境の確保を図る事を目的として、樹木を植栽するため縁石線又はさくその他これに類する工作物により区画して設けられる帯状の道路の部分を用いる。
- 18 路上施設 道路の附属物（共同溝及び電線共同溝を除く。）で歩道、自転車道、自転車歩行者道、中央帯、路肩、自転車歩行者専用道路又は歩行者専用道路に設けられるものをいう。
- 19 都市部 市街地を形成している地域又は市街地を形成する見込の多い地域を用いる。
- 20 地方部 都市部以外の地域を用いる。
- 21 計画交通量 道路の設計の基礎とするために、当該道路の

<p>存する地域の発展の動向、将来の自動車交通の状況等を勘案して、国土交通省令で定めるところにより、当該道路の新設又は改築に関する計画を策定するものが定める自動車の日交通量をいう。</p> <p>2 2 設計速度 道路の設計の基礎となる自動車の速度をいう。</p> <p>2 3 視距 車線（車線を有しない道路にあっては、車道。以下この号において同じ。）の中心線上1.2メートルの高さから当該車線の中心線上にある高さ10センチメートルの物の頂点を見とることができる距離を当該車線の中心線に沿って測った長さをいう。</p>																													
<p>(道路の区分)</p> <p>第3条 道路は、次の表に定めるところにより、第1種から第4種までに区分するものとする。</p> <table border="1" data-bbox="161 643 1050 826"> <tr> <td>道路の存する地域</td> <td>地方部</td> <td>都市部</td> </tr> <tr> <td>高速自動車国道及び自動車専用道路又はその他の道路の別</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>高速自動車国道及び自動車専用道路</td> <td>第1種</td> <td>第2種</td> </tr> <tr> <td>その他の道路</td> <td>第3種</td> <td>第4種</td> </tr> </table> <p>2 第1種の道路は、第1号の表に定めるところにより第1級から第4級までに、第2種の道路は、第2号の表に定めるところにより第1級から第2級までに、第3種の道路は、第3号の表に定めるところにより第1級から第5級までに、第4種の道路は、第4号の表に定めるところにより第1級から第4級までに区分するものとする。ただし、地形の状況その他の特別の理由によりやむを得ない場合においては、該当する級が第3種第5級又は第4種第4級である場合を除き、該当する級の一級下の級に区分することができる。</p> <p>1 第1種の道路</p> <table border="1" data-bbox="161 1262 1050 1439"> <tr> <td>計画交通量（単位—1日につき台—）</td> <td>30,000以上</td> <td>20,000以上</td> <td>10,000以上</td> <td>10,000未満</td> </tr> <tr> <td>道路の存する地域の地形</td> <td></td> <td>30,000未満</td> <td>20,000未満</td> <td></td> </tr> <tr> <td>道路の種類</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	道路の存する地域	地方部	都市部	高速自動車国道及び自動車専用道路又はその他の道路の別			高速自動車国道及び自動車専用道路	第1種	第2種	その他の道路	第3種	第4種	計画交通量（単位—1日につき台—）	30,000以上	20,000以上	10,000以上	10,000未満	道路の存する地域の地形		30,000未満	20,000未満		道路の種類					<p>規定しない。</p>	<p>参酌すべき基準</p> <p>政令で定めることとなっている。</p> <p>本市の実態に該当しない基準の部分は、見え消しとした。</p>
道路の存する地域	地方部	都市部																											
高速自動車国道及び自動車専用道路又はその他の道路の別																													
高速自動車国道及び自動車専用道路	第1種	第2種																											
その他の道路	第3種	第4種																											
計画交通量（単位—1日につき台—）	30,000以上	20,000以上	10,000以上	10,000未満																									
道路の存する地域の地形		30,000未満	20,000未満																										
道路の種類																													

高速自動車国道	平地部	第1級	第2級	第3級
	山地部	第2級	第3級	第4級
高速自動車国道以外の道路	平地部	第2級		第3級
	山地部	第3級		第4級

2 第2種の道路

道路の存する地区	大都市の都心部以外の地区	大都市の都心部
道路の種類		
高速自動車国道	第1級	
高速自動車国道以外の道路	第1級	第2級

3 第3種の道路

計画交通量(単位につき台)	20,000以上	4,000以上	1,500以上	500以上	500未満
道路の存する地域の地形		20,000未満	4,000未満	1,500未満	
道路の種類					
一般国道	平地部	第1級	第2級	第3級	
	山地部	第2級	第3級	第4級	
都道府県道	平地部	第2級		第3級	
	山地部	第3級		第4級	
市町村道	平地部	第2級		第3級	第4級 第5級
	山地部	第3級		第4級 第5級	

4 第4種の道路

計画交通量(単位につき台)	1日に10,000以上	4,000以上	500以上	500未満
道路の種類		10,000未満	4,000未満	
一般国道	第1級		第2級	
都道府県道	第1級	第2級	第3級	
市町村道	第1級	第2級	第3級	第4級

本市の実態に該当しない基準の部分は、見え消しとした。

~~3 前2項の規定による区分は、当該道路の交通の状況を考慮して行うものとする。~~

4 ~~第1種、第2種、第3種第1級から第4級まで又は第4種第1級から第3級までの道路（第3種第1級から第4級まで又は第4種第1級から第3級までの道路にあっては、高架の道路その他の自動車の沿道への出入りができない構造のものに限る。）は、地形の状況、市街化の状況その他の特別の理由によりやむを得ない場合において、当該道路の近くに小型自動車等（小型自動車その他これに類する小型の自動車をいう。以下同じ。）以外の自動車が迂回することができる道路があるときは、小型自動車等（第3種第1級から第4級まで又は第4種第1級から第3級までの道路にあっては、小型自動車等及び歩行者又は自転車）のみの通行の用に供する道路とすることができる。~~

5 ~~第1種、第2種、第3種第1級から第4級まで又は第4種第1級から第3級までの道路について、地形の状況、市街化の状況その他の特別の理由によりやむを得ない場合においては、小型自動車等のみの通行の用に供する車線を他の車線と分離して設けることができる。この場合において、第3種第1級から第4級まで又は第4種第1級から第3級までの道路について小型自動車等のみの通行の用に供する車線を設けようとするときは、当該車線に係る道路の部分を高架の道路その他の自動車の沿道への出入りができない構造とするものとする。~~

6 ~~道路は、小型道路（第4項に規定する小型自動車等（第3種第1級から第4級まで又は第4種第1級から第3級までの道路にあっては、小型自動車等及び歩行者又は自転車）のみの通行の用に供する道路及び前項に規定する小型自動車等のみの通行の用に供する車線に係る道路の部分をいう。以下同じ。）と普通道路（小型道路以外の道路及び道路の部分をいう。以下同じ。）とに区分するものとする。~~

~~（高速自動車国道及び一般国道の構造の一般的技術的基準）  
第3条の2 高速自動車国道又は一般国道を新設し、又は改築する場合におけるこれらの道路の構造の一般的技術的基準は、次条か~~

本市の実態に  
該当しない基準  
の部分は、見え  
消しとした。

—ら第40条までに定めるところによる。

(設計車両)

第4条 道路の設計にあつては、第1種、第2種、第3種第1級又は第4種第1級の普通道路にあつては小型自動車及びセミトレーラ連結車(自動車と前車軸を有しない被牽引車との結合体であつて、被牽引車の一部が自動車にのせられ、かつ、被牽引車及びその積載物の重量の相当の部分が自動車によって支えられているものをいう。以下同じ。)が、その他の普通道路にあつては小型自動車及び普通自動車が、小型自動車にあつては小型自動車等が安全かつ円滑に通行することができるようにするものとする。

2 道路の設計の基礎とする自動車(以下「設計車両」という。)の種類ごとの諸元は、それぞれ次の表に掲げる値とする。

諸元(単位メートル)	長さ	幅	高さ	前端オーバーハング	軸距	後端オーバーハング	最小回転半径
設計車両							
小型自動車	4.7	1.7	2	0.8	2.7	1.2	6
小型自動車等	6	2	2.7	1	3.7	1.3	7
普通自動車	12	2.5	3.8	1.5	6.5	4	12
セミトレーラ連結車	16.5	2.5	3.8	1.3	前軸距 4 後軸距 9	2.2	12

この表において、次の各号に掲げる用語の意義は、それぞれ当該各号に定めるところによる。

- 1 前端オーバーハング 車体の前面から前輪の中心までの距離をいう。
- 2 軸距 前輪の車軸の中心から後輪の車軸の中心までの距離をいう。
- 3 後輪オーバーハング 後輪の車軸の中心から車体の後面までの距離をいう。

規定しない。

政令で定めることとなっている。

(車線等)

第5条 車道(副道、停車帯その他国土交通省で定める部分を除く。)は、車線により構成されるものとする。ただし、第3種第5級の道路にあっては、この限りでない。

2 道路の区分及び地方部に存する道路にあっては地形の状況に応じ、計画交通量が次の表の設計基準交通量(自動車の最大許容交通量をいう。以下同じ。)の欄に掲げる値以下である道路の車線(付加追越車線、登坂車線、屈曲車線及び変速車線を除く。次項において同じ。)の数は、2とする。

区 分		地形	設計基準交通量 (単位 1日につき台)
第1種	第2級	平地部	14,000
		山地部	14,000
	第3級	平地部	14,000
		山地部	10,000
		山地部	10,000
第4級	平地部	平地部	13,000
		山地部	9,000
	山地部	平地部	9,000
		山地部	9,000
第3種	第2級	平地部	9,000
		山地部	8,000
	第3級	平地部	8,000
		山地部	6,000
		山地部	6,000
第4級	平地部	平地部	8,000
		山地部	6,000
	山地部	6,000	
第4種	第1級		12,000
	第2級		10,000
	第3級		9,000

交差点の多い第4種の道路については、この表の設計基準交通量に0.8を乗じた値を設計基準交通量とする。

3 前項に規定する道路以外の道路(第2種の道路で対向車線を設けないもの及び第3種第5級の道路を除く。)の車線の数は4以上(交通の状況により必要がある場合を除き、2の倍数)、第2種の道路で対向車線を設けないものの車線の数は2以上とし、当該道路の区分及び地方部に存する道路にあっては地形の状況に応じ、次の表に掲げる1車線あたりの設計基準交通量に対する当該

(車線等)

第3条 車道(副道、停車帯その他規則で定める部分を除く。)は、車線により構成されるものとする。ただし、第3種第5級又は第4種第4級の道路にあっては、この限りでない。

2 次の表に掲げる道路の区分に応じ、計画交通量が同表の設計基準交通量の欄に掲げる値以下である道路の車線(屈折車線及び変速車線を除く。次項から第6項までにおいて同じ。)の数は、2とする。

道路の区分		設計基準交通量 (単位 1日につき台)
第3種	第2級	9,000
	第3級	8,000
	第4級	8,000
第4種	第1級	12,000
	第2級	10,000
	第3級	9,000

3 交差点の多い第4種の道路の車線については、前項中「設計基準交通量の欄に掲げる値」とあるのは「設計基準交通量の欄に掲げる値に0.8を乗じた値」と読み替えて同項の規定を適用する。

4 第2項(前項の規定の適用がある場合)に規定する道路以外の道路(第3種第5級及び第4種第4級の道路を除く。)の車線の数は4以上(交通の状況により必要がある場合を除き、2の倍数)とし、当該道路の次の表に掲げる道路の区分に応じた同表に掲げる1車線あたりの設計基準交通量に対する当該道路の計画交通量の割合によって定めるものとする。

参酌すべき基準

本市の実態に該当しない基準の部分は、見え消しとした。

道路の計画交通量の割合によって定めるものとする。

区 分		地形	一車線当たりの設計基準交通量（単位1日につき台）
第1種	第1級	平地部	12,000
		山地部	9,000
	第2級	平地部	12,000
		山地部	9,000
	第3級	平地部	11,000
		山地部	8,000
	第4級	平地部	11,000
		山地部	8,000
第2種	第1級		18,000
	第2級		17,000
第3種	第1級	平地部	11,000
		山地部	9,000
	第2級	平地部	9,000
		山地部	7,000
	第3級	平地部	8,000
		山地部	6,000
第4種	第1級		12,000
	第2級		10,000
	第3級		10,000

交差点の多い第4種の道路については、この表の設計基準交通量に0.8を乗じた値を設計基準交通量に0.8を乗じた値を設計基準交通量とする。

4 車線（登坂車線、屈折車線及び変速車線を除く。以下この項において同じ。）の幅員は、道路の区分に応じ、次の表の車線の幅員の欄に掲げる値とするものとする。ただし、第1種第1級若しくは第2級、第3種第2級又は第4種第1級の普通道路にあっては、交通の状況により必要がある場合においては、同欄に掲げる値0.25メートルを加えた値、第1種第2級若しくは第3級の小型道路又は第2種第1級の道路にあっては、地形の状況その他

道路の区分		1車線当たりの設計基準交通量（単位1日につき台）
第3種	第2級	9,000
	第3級	8,000
第4種	第1級	12,000
	第2級	10,000
	第3級	10,000

5 交差点の多い第4種の道路の車線については、前項中「1車線当たりの設計基準交通量に」とあるのは「1車線当たりの設計基準交通量に0.6を乗じた値に」と読み替えて同項の規定を適用する。

6 車線の幅員は、次の表に掲げる道路の区分に応じ、同表車線の幅員の欄に掲げる値とするものとする。ただし、第3種第2級又は第4種第1級の普通道路にあっては、交通の状況により必要がある場合においては、同欄に掲げる値に0.25メートルを加えた値とすることができる。

本市の実態に該当しない基準の部分は、見え消しとした。



—の特別の理由によりやむを得ない場合においては、同欄に掲げる値から0.25メートルを減じた値とすることができる。

区 分		車線の幅員（単位 メートル）	
第1種	第1級		3.5
	第2級		
	第3級	普通道路	3.5
		小型道路	3.25
	第4級	普通道路	3.25
		小型道路	3
第2種	第1級	普通道路	3.5
		小型道路	3.25
	第2級	普通道路	3.25
		小型道路	3
第3種	第1級	普通道路	3.5
		小型道路	3
	第2級	普通道路	3.25
		小型道路	2.75
	第3級	普通道路	3
		小型道路	2.75
第4級		2.75	
第4種	第1級	普通道路	3.25
		小型道路	2.75
	第2級及び第3級	普通道路	3
		小型道路	2.75

5 第3種第5級の普通道路の車道の幅員は、4メートルとするものとする。ただし、当該普通道路の計画交通量が極めて少なく、かつ、地形の状況その他の特別の理由によりやむを得ない場合又は第31条の2の規定により車道に狭窄部を設ける場合においては、3メートルとすることができる。

道路の区分			車線の幅員（単位 メートル）	
第3種	第2級	普通道路	3.25	
		小型道路	2.75	
	第3級	普通道路	3.00	
		小型道路	2.75	
第4級		2.75		
第4種	第1級	普通道路	3.25	
		小型道路	2.75	
	第2級及び第3級	普通道路	3.00	
		小型道路	2.75	

7 第3種第5種又は第4種第4級の普通道路の車道の幅員の計画は、4メートルとするものとする。ただし、当該普通道路の計画交通量が極めて少なく、かつ、地形の状況その他の特別の理由によりやむを得ない場合又は第31条の規定により車道に狭窄部を設ける場合においては、3メートルとすることができる。

本市の実態に該当しない基準の部分は、見え消しとした。

(車線の分離等)

第6条 第1種、第2種又は第3種第1級の道路(対向車線を設けない道路を除く。以下この条において同じ。)の車線の数が4以上であるその他の道路について、安全かつ円滑な交通を確保するため必要がある場合においても、同様とする。

2 前項前段の規定にかかわらず、車線の数(登坂車線、屈折車線及び変速車線の数を除く。以下この条において同じ。)が3以下である第1種の道路にあつては、地形の状況その他の特別の理由によりやむを得ない場合においては、その車線を往復の方向に分離しないことができる。

3 車線を往復の方向別に分離するため必要があるときは、中央帯を設けるものとする。

4 中央帯の幅員は、当該道路の区分に応じ、次の表の中央帯の幅員の欄の上欄に掲げる値以上とするものとする。ただし、長さ100メートル以上のトンネル、長さ50メートル以上の橋若しくは高架の道路又は地形の状況その他の理由によりやむを得ない箇所については、同表の中央帯の幅員の欄の下欄に掲げる値まで縮小することができる。

区 分		中央帯の幅員(単位 メートル)	
第1種	第1級	4.5	2
	第2級		
	第3級	3	1.5
	第4級		
第2種	第1級	2.25	1.5
	第2級	1.75	1.25
第3種	第1級	1.75	1
	第2級		
	第3級		
	第4級		
第4種	第1級	1	
	第2級		
	第3級		

(車線の分離等)

第4条 車線を往復の方向別に分離するため必要があるときは、中央帯を設けるものとする。

2 中央帯の幅員は、次の表に掲げる道路の区分に応じ、同表の中央帯の幅員の欄の左欄に掲げる値以上とするものとする。ただし、長さ50メートル以上の橋若しくは高架の道路又は地形の状況その他の特別の理由によりやむを得ない箇所については、同表中央帯の幅員の欄の下欄に掲げるまで縮小することができる。

道路の区分		中央帯の幅員(単位 メートル)	
第3種	第2級	1.75	1
	第3級		
	第4級		
第4種	第1級	1	
	第2級		
	第3級		

参酌すべき基準

本市の実態に該当しない基準の部分は、見え消しとした。

5 中央帯には、側帯を設けるものとする。

6 前項の側帯の幅員は、道路の区分に応じ、次の表の中央帯に設ける側帯の幅員の欄の上欄に掲げる値とするものとする。ただし、第4項ただし書の規定により中央帯の幅員を縮小する道路又は箇所については、同表の中央帯に設ける側帯の幅員の欄の下欄に掲げる値まで縮小することができる。

区 分		中央帯の設ける側帯の幅員（単位メートル）	
第1種	第1級	0.75	0.25
	第2級	0.5	
	第3級		
	第4級		
第2種		0.5	0.25
第3種	第1級	0.25	
	第2級		
	第3級		
	第4級		
第4種	第1級	0.25	
	第2級		
	第3級		

7 中央帯のうち側帯以外の部分（以下「分離帯」という。）には、さくその他これに類する工作物を設け、又は側帯に接続して縁石線を設けるものとする。

8 分離帯に路上施設を設ける場合においては、当該中央帯の幅員は、第12条の建築限界を勘案して定めるものとする。

~~9 同方向の車線の数がある第1種の道路の当該車線の属する車道には、必要に応じ、付加追越車線を設けるものとする。~~

3 中央帯には、測定を設けるものとする。

4 前項の側帯の幅員は、次の表に掲げる道路の区分に応じ、同表の中央帯に設ける側帯の幅員に掲げる値とするものとする。

道路の区分		中央帯に設ける側帯の幅員（単位メートル）	
第3種	第2級	0.25	
	第3級		
	第4級		
	第1級		
第4種	第2級	0.25	
	第3級		
	第1級		

5 中央帯のうち側帯以外の部分（以下「分離帯」という。）には、柵その他これに類する工作物を設け、又は側帯に接続して縁石線を設けるものとする。

6 分離帯に路上施設を設ける場合においては、当該中央帯の幅員は、政令第12条に規定する建築限界を勘案して定めるものとする。

本市の実態に該当しない基準の部分は、見え消しとした。

(副道)

第7条 車線（登坂車線、屈折車線及び変速車線を除く。）の数が4以上である第3種又は第4種の道路には、必要に応じ、副道を設けるものとする。

2 副道の幅員は、4メートルを標準とする。

(路肩)

第8条 道路には、車道に接続して、路肩を設けるものとする。ただし、中央帯又は停車帯を設ける場合においては、この限りでない。

2 車道の左側に設ける路肩の幅員は、道路の区分に応じ、次の表の車道の左側に設ける路肩の幅員の欄の上欄に掲げる値以上とするものとする。ただし、付加追越車線、登坂車線若しくは変速車線を設ける箇所、長さ50メートル以上の橋若しくは高架の道路又は地形の状況その他の特別の理由によりやむを得ない箇所については、同表の車道の左側に設ける路肩の幅員の欄の下欄に掲げる値まで縮小することができる。

区 分		車道の左側に設ける路肩の幅員（単位メートル）		
第1種	第1種及び第2種	普通道路	2.5	4.75
		小型道路	4.25	
	第3種及び第4種	普通道路	4.75	4.25
		小型道路	4	
第2種		普通道路	4.25	
		小型道路	4	
第3種	第1種	普通道路	1.25	0.75
		小型道路	0.75	
	第2級から第4級まで	普通道路	0.75	0.5
		小型道路	0.5	
	第5級		0.5	
第4種		0.5		

(副道)

第5条 車線（屈折車線及び変速車線を除く。）の数が4以上である第3種又は第4種の道路には、必要に応じ、副道を設けるものとする。

2 副道の幅員は、4メートルを標準とする。

(路肩)

第6条 道路には、車道に接続して、路肩を設けるものとする。ただし、中央帯又は停車帯を設ける場合においては、この限りでない。

2 車道の左側に設ける路肩の幅員は、次の表に掲げる道路の区分に応じ、同表の車道の左側に設ける路肩の幅員の欄の左欄に掲げる値以上とするものとする。ただし、変速車線を設ける箇所、長さ50メートル以上の橋若しくは高架の道路又は地形の状況その他の特別の理由によりやむを得ない箇所については、同表の車道の左側に設ける路肩の幅員の欄の右側に掲げる値まで縮小することができる。

道路の区分		車道の左側に設ける路肩の幅員（単位メートル）		
第3種	第2級から第4級まで	普通道路	0.75	0.5
		小型道路	0.5	
	第5級		0.5	
第4種		0.5		

本市の実態に該当しない基準の部分は、見え消しとした。

本市の実態に該当しない基準の部分は、見え消しとした。

本市の実態に  
該当しない基準  
の部分は、見え  
消しとした。

3 前項の規定にかかわらず、車線を往復の方向別に分離する第1種の道路であって同方向の車線の数~~が~~1であるものの当該車線の属する車道の左側に設ける路肩の幅員は、道路区分に応じ、次の表の車道の左側に設ける路肩の幅員の欄の上側に掲げる値以上とするものとする。ただし、普通道路のうち、長さ100メートル以上のトンネル、長さ50メートル以上の橋若しくは高架の道路又は地形の状況その他の特別の理由によりやむを得ない箇所であって、大型の自動車の交通量が少ないものについては、同表の車道の左側に設ける路肩の幅員の欄の右側に掲げる値まで縮小することができる。

区 分		車道の左側に設ける路肩の幅員 (単位 メートル)	
第2級 及び第3級	普通道路	2.5	4.75
	小型道路	4.25	
第4級	普通道路	2.5	2
	小型道路	4.25	

4 車道の右側に設ける路肩の幅員は、道路の区分に応じ、次の表の車道の右側に設ける路肩の幅員に掲げる値以上とするものとする。

区 分			車道の右側に設ける路肩の幅員 (単位 メートル)
第1種	第1級及 び第2級	普通道路	4.25
		小型道路	0.75
	第3級及 び第4級	普通道路	0.75
		小型道路	0.5
第2種	普通道路	0.75	
	小型道路	0.5	
第3種	種	0.5	
第4種	種	0.5	

3 車道の右側に設ける路肩の幅員は、次の表に掲げる道路の区分に応じ、同表の車道の右側に設ける路肩の幅員の欄に掲げる値以上とするものとする。

道路の区分	車道の右側に設ける路肩の幅 (単位 メートル)
第3種	0.5
第4種	0.5

~~5 普通道路のトンネルの車道に接続する路肩（第3項本文に規定する路肩を除く。）又は小型道路のトンネルの車道の左側に設ける路肩（同項本文に規定する路肩を除く。）の幅員は、第1種第1級又は第2級の道路にあっては1メートルまで、第1種第3級又は第4級の道路にあっては0.75メートルまで、第3種（第5級を除く。）の普通道路又は第3種第1級の小型道路にあっては0.5メートルまで縮小することができる。~~

6 副道に接続する路肩については、第2項の表第3種の項車道の左側に設ける路肩の幅員の欄の左側中「1.25」とあり、及び「0.75」とあるのは、「0.5」とし、第2項ただし書の規定は適用しない。

7 歩道、自転車道又は自転車歩行者道を設ける道路にあっては、道路の主要構造部を保護し、又は車道の効用を保つために支障がない場合においては、車道に接続する路肩を設けず、又はその幅員を縮小することができる。

~~8 第1種又は第2種の道路の車道に接続する路肩には、側帯を設けるものとする。~~

~~9 前項の側帯の幅員は、道路区分に応じ、普通道路にあっては次の表の路肩に設ける側帯の幅員の欄の上欄に掲げる値と、小型道路にあっては0.25メートルとする。ただし、普通道路のトンネルの車道に接続する路肩に設ける側帯の幅員は、同表の路肩に設ける側帯の幅員は、同表の路肩に設ける側帯の幅員の欄の下欄に掲げる値とすることができる。~~

区 分		路肩に設ける側帯の幅員 (単位 メートル)	
第1種	第1級	0.75	0.5
	第2級		
	第3級	0.5	0.25
	第4級		
第2種	第1級	0.5	
	第2級		

4 副道に接続する路肩については、第2項の表第3種の項車道の左側に設ける路肩の幅員の欄の左欄中「0.75」とあるのは、「0.5」とし、第2項ただし書の規定は適用しない。

5 歩道、自転車道又は自転車歩行者道を設ける道路にあっては、道路の主要構造部を保護し、又は車道の効用を保つために支障がない場合においては、車道に接続する路肩を設けず、又はその幅員を縮小することができる。

本市の実態に該当しない基準の部分は、見え消しとした。

本市の実態に該当しない基準の部分は、見え消しとした。

10 道路の主要構造部を保護するため必要がある場合においては、歩道、自転車道又は自転車歩行者道に接続して、路端寄りに路肩を設けるものとする。

11 車道に接続する路肩に路上施設を設ける場合においては、当該路肩の幅員については、第2項の表の車道の左側に設ける路肩の幅員の欄又は第4項の表の車道の右側に設ける路肩の幅員の欄に掲げる値に当該路上施設を設けるのに必要な値を加えてこれらの規定を適用するものとする。

6 道路の主要構造部を保護するため必要がある場合においては、歩道、自転車道又は自転車歩行者道に接続して、路端寄りに路肩を設けるものとする。

7 車道に接続する路肩に路上施設を設ける場合においては、当該路肩の幅員については、第2項の表の車道の左側に設ける路肩の幅員の欄又は第3項の表の車道の右側に設ける路肩の幅員の欄に掲げる値に当該路上施設を設けるのに必要な値を加えてこれらの規定を適用するものとする。

( 停車帯 )

第9条 第4種の道路には、自動車の停車により車両の安全かつ円滑な通行が妨げられないようにするため必要がある場合においては、車道の左端寄りに停車帯を設けるものとする。

2 停車帯の幅員は、2.5メートルとするものとする。ただし、自動車の交通量のうち大型の自動車の交通量の占める割合が低いと認められる場合においては、1.5メートルまで縮小することができる。

—( 軌道敷 )—

第9条の2—軌道敷の幅員は、軌道の単線又は複線の別に応じ、次の表の右欄に掲げる値以上とするものとする。—

( 停車帯 )

第7条 第4種(第4級を除く。)の道路には、自動車の停車により車両の安全かつ円滑な通行が妨げられないようにするため必要がある場合においては、車道の左端寄りに停車帯を設けるものとする。

2 停車帯の幅員は、2.5メートルとするものとする。ただし、自動車の交通量のうち大型の自動車の交通量の占める割合が低いと認められる場合においては、1.5メートルまで縮小することができる。

本市の実態に該当しない基準の部分は、見え消しとした。

区 分	—軌道敷の幅員— —(単位—メートル)—
単 線	3
複 線	6

( 自転車道 )

第10条 自動車及び自転車の交通量が多い第3種又は第4種の道路には、自転車道を道路の各側に設けるものとする。ただし、地形の状況その他の特別の理由によりやむを得ない場合においては、この限りでない。

( 自転車道 )

第8条 自動車及び自転車の交通量が多い第3種又は第4種の道路には、自転車道を道路の各側に設けるものとする。ただし、地形の状況その他の特別の理由によりやむを得ない場合においては、この限りでない。

<p>2 自転車の交通量が多い第3種若しくは第4種の道路又は自動車及び歩行者の交通量が多い第3種若しくは第4種の道路（前項に規定する道路を除く。）には、安全かつ円滑な交通を確保するため自転車の通行の各側に設けるものとする。ただし、地形の状況その他の特別の理由によりやむを得ない場合においては、この限りでない。</p> <p>3 自転車道の幅員は、2メートル以上とするものとする。ただし、地形の状況その他の特別の理由によりやむを得ない場合においては、1.5メートルまで縮小することができる。</p> <p>4 自転車道に路上施設を設ける場合においては、当該自転車道の幅員は、第12条の建築限界を勘案して定めるものとする。</p> <p>5 自転車道の幅員は、当該道路の自転車の交通の状況を考慮して定めるものとする。</p>	<p>2 自転車の交通量が多い第3種若しくは第4種の道路又は自転車及び歩行者の交通量が多い第3種若しくは第4種の道路（前項に規定する道路を除く。）には、安全かつ円滑な交通を確保するため自転車道を道路の各側に設けるものとする。ただし、地形の状況その他の特別の理由によりやむを得ない場合においては、この限りでない。</p> <p>3 自転車道の幅員は、2メートル以上とするものとする。ただし、地形の状況その他の特別の理由によりやむを得ない場合においては、1.5メートルまで縮小することができる。</p> <p>4 自転車道に路上施設を設ける場合においては、当該自転車道の幅員は、政令第12条に規定する建築限界を勘案して定めるものとする。</p> <p>5 自転車道の幅員は、当該道路の自転車の交通の状況を考慮して定めるものとする。</p>	<p>参酌すべき基準</p>
<p>（自転車歩行者道）</p> <p>第10条の2 自動車の交通量が多い第3種又は第4種の道路（自転車道を設ける道路を除く。）には、自転車歩行者道を道路の各側に設けるものとする。ただし、地形の状況その他の特別の理由によりやむを得ない場合においては、この限りでない。</p> <p>2 自転車歩行者道の幅員は、歩行者の交通量が多い道路にあっては4メートル以上、その他の道路にあっては3メートル以上とするものとする。</p> <p>3 横断歩道橋若しくは地下横断歩道（以下「横断歩道橋等」という。）又は路上施設を設ける自転車歩行者道の幅員については、前項に規定する幅員の値に横断歩道橋等を設ける場合にあつては3メートル、ベンチの上屋を設ける場合にあつては2メートル、並木を設ける場合にあつては1.5メートル、ベンチを設ける場合にあつては1メートル、その他の場合にあつては0.5メートルを加えて同項の規定を適用するものとする。ただし、第3種第5級の道路にあっては、地形の状況その他の特別の理由によりや</p>	<p>（自転車歩行者道）</p> <p>第9条 自動車の交通量が多い第3種又は第4種の道路（自転車道を設ける道路を除く。）には、自転車歩行者道を道路の各側に設けるものとする。ただし、地形の状況その他の特別の理由によりやむを得ない場合においては、この限りでない。</p> <p>2 自転車歩行者道の幅員は、歩行者の交通量が多い道路にあっては4メートル以上、その他の道路にあっては3メートル以上とするものとする。</p> <p>3 横断歩道橋若しくは地下横断歩道（以下「横断歩道橋等」という。）又は路上施設を設ける自転車歩行者道の幅員については、前項に規定する幅員の値に横断歩道橋等を設ける場合にあつては3メートル、ベンチの上屋を設ける場合にあつては2メートル、並木を設ける場合にあつては1.5メートル、ベンチを設ける場合にあつては1メートル、その他の場合にあつては0.5メートルを加えて同項の規定を適用するものとする。ただし、第3種第5級又は第4種第4級の道路にあっては、地形の状況その他の特</p>	



<p>むを得ない場合においては、この限りでない。</p> <p>4 自転車歩行者道の幅員は、当該道路の自転車及び歩行者の交通の状況を考慮して定めるものとする。</p>	<p>別の理由によりやむを得ない場合においては、この限りでない。</p> <p>4 自転車歩行者道の幅員は、当該道路の自転車及び歩行者の交通の状況を考慮して定めるものとする。</p>	
<p>(歩道)</p> <p>第11条 第4種の道路(自転車歩行者道を設ける道路を除く。)、歩行者の交通量が多い第3種(第5級を除く。)の道路(自転車歩行者道を設ける道路を除く。)又は自転車道を設ける第3種の道路には、その各側に歩道を設けるものとする。ただし、地形の状況その他の特別の理由によりやむを得ない場合においては、この限りでない。</p> <p>2 第3種道路(自転車歩行者道を設ける道路及び前項に規定する道路を除く。)には、安全かつ円滑な交通を確保するため必要がある場合においては、歩道を設けるものとする。ただし、地形の状況その他の特別の理由によりやむを得ない場合においては、この限りでない。</p> <p>3 歩道の幅員は、歩行者の交通量が多い道路にあつては3.5メートル以上、その他の道路にあつては2メートル以上とするものとする。</p> <p>4 横断歩道橋等又は路上施設を設ける歩道の幅員については、前項に規定する幅員の値に横断歩道橋等を設ける場合にあつては3メートル、ベンチの上屋を設ける場合にあつては2メートル、並木を設ける場合にあつては1.5メートル、ベンチを設ける場合にあつては1メートル、その他の場合にあつては0.5メートルを加えて同項の規定を適用するものとする。ただし、第3種第5級の道路にあつては、地形の状況その他の特別の理由によりやむを得ない場合においては、この限りでない。</p> <p>5 歩道の幅員は、当該道路の歩行者の交通の状況を考慮して定めるものとする。</p>	<p>(歩道)</p> <p>第10条 第4種(第4級を除く。)の道路(自転車歩行者道を設ける道路を除く。)、歩行者の交通量が多い第3種(第5級を除く。)の道路(自転車歩行者道を設ける道路を除く。)又は自転車道を設ける第3種若しくは第4種第4級の道路には、その各側に歩道を設けるものとする。ただし、地形の状況その他の特別の理由によりやむを得ない場合においては、この限りでない。</p> <p>2 第3種又は第4種第4級の道路(自転車歩行者道を設ける道路及び前項に規定する道路を除く。)には、安全かつ円滑な交通を確保するため必要がある場合においては、歩道を設けるものとする。ただし、地形の状況その他の特別の理由によりやむを得ない場合においては、この限りでない。</p> <p>3 歩道の幅員は、歩行者の交通量が多い道路にあつては3.5メートル以上、その他の道路にあつては2メートル以上とするものとする。</p> <p>4 横断歩道橋等又は路上施設を設ける歩道の幅員については、前項に規定する幅員の値に横断歩道橋等を設ける場合にあつては3メートル、ベンチの上屋を設ける場合にあつては2メートル、並木を設ける場合にあつては1.5メートル、ベンチを設ける場合にあつては1メートル、その他の場合にあつては0.5メートルを加えて同項の規定を適用するものとする。ただし、第3種第5級又は第4種第4級の道路にあつては、地形の状況その他の特別の理由によりやむを得ない場合においては、この限りでない。</p> <p>5 歩道の幅員は、当該道路の歩行者の交通の状況を考慮して定めるものとする。</p>	<p>参酌すべき基準</p>

<p>(歩行者の滞留の用に供する部分)</p> <p>第11条の2 歩道、自転車歩行者道、自転車歩行者専用道路又は歩行者専用道路には、横断歩道、乗合自動車停車所等に係る歩行者の滞留により歩行者又は自転車の安全かつ円滑な通行が妨げられないようにするため必要がある場合においては、主として歩行者の滞留の用に供する部分を設けるものとする。</p> <p>—(積雪地域に存する道路の中央帯等の幅員)—</p> <p>第11条の3—積雪地域に存する道路の中央帯、路肩、植樹帯を設けるものとし、その他の特別の理由によりやむを得ない場合においては、この限りでない。</p> <p>(植樹帯)</p> <p>第11条の4 第4種第1級及び第2級の道路には、植樹帯を設けるものとし、その他の道路には、必要に応じ、植樹帯を設けるものとする。ただし、地形の状況その他の特別の理由によりやむを得ない場合においては、この限りでない。</p> <p>2 植樹帯の幅員は、1.5メートルを標準とする。</p> <p>3 次に掲げる道路の区間に設ける植樹帯の幅員は、当該道路の構造及び交通の状況、沿道の土地利用の状況並びに良好な道路交通環境の整備又は沿道における良好な生活環境の確保のため講じられる他の措置を総合的に勘案して特に必要があると認められる場合には、前項の規定にかかわらず、その事情に応じ、同項の規定により定められるべき値を超える適切な値とするものとする。</p> <p>一 都心部又は景勝地を通過する幹線道路の区間</p> <p>二 相当数の住居が集合し、又は集合することが確実に見込まれる地域を通過する幹線道路の区間</p> <p>4 植樹帯の植栽に当たっては、地域の特性等を考慮して、樹種の選定、樹木の配置等を適切に行うものとする。</p>	<p>(歩行者の滞留の用に供する部分)</p> <p>第11条 歩道、自転車歩行者道、自転車歩行者専用道路又は歩行者専用道路には、横断歩道、乗合自動車停車所等に係る歩行者の滞留により歩行者又は自転車の安全かつ円滑な通行が妨げられないようにするため必要がある場合においては、主として歩行者の滞留の用に供する部分を設けるものとする。</p> <p>(植樹帯)</p> <p>第12条 第4種第1級及び第2級の道路には、植樹帯を設けるものとし、その他の道路には、必要に応じ、植樹帯を設けるものとする。ただし、地形の状況その他の特別の理由によりやむを得ない場合においては、この限りでない。</p> <p>2 植樹帯の幅員は、1.5メートルを標準とする。</p> <p>3 次に掲げる道路の区間に設ける植樹帯の幅員は、当該道路の構造及び交通の状況、沿道の土地利用の状況並びに良好な道路交通環境の整備又は沿道における良好な生活環境の確保のため講じられる他の措置を総合的に勘案して特に必要があると認められる場合には、前項の規定にかかわらず、その事情に応じ、同項の規定により定められるべき値を超える適切な値とするものとする。</p> <p>(1) 都心部又は景勝地を通過する幹線道路の区間</p> <p>(2) 相当数の住居が集合し、又は集合することが確実に見込まれる地域を通過する幹線道路の区間</p> <p>4 植樹帯の植栽に当たっては、地域の特性等を考慮して、樹種の選定、樹木の配置等を適切に行うものとする。</p>	<p>参酌すべき基準</p> <p>本市の実態に該当しない基準の部分は、見え消しとした。</p>
--	---	--

(建築限界)

第12条 建築限界は、車道にあっては第1図、歩道及び自転車歩行者道(以下「自転車道等」という。)にあっては第2図に示すところによるものとする。

規定しない。

政令で定めることとなっている

(一)	(二)	(三)
車道に接続して路肩を設ける道路の車道( (三) に示す部分を除く。)	車道に接続して路肩を設けない道路の車道( (三) に示す部分を除く。)	車道のうち分離帯又は交通島に係る部分
歩道又は自転車道等を有しないトンネル又は長さ50メートル以上の橋若しくは高架の道路以外の道路	歩道又は自転車道等を有しないトンネル又は長さ50メートル以上の橋若しくは高架の道路の車道	

図(略)  
 この図において、H、a、b、c、d及びeは、それぞれ次の値を表すものとする。H普通道路にあっては4.5メートル、小型道路にあっては3メートル。ただし、第3種5級の普通道路にあっては、地形の状況その他の特別の理由によりやむを得ない場合においては、4メートル(大型の自動車の交通量が極めて少なく、かつ、当該道路の近くに大型の自動車が迂回することができる道路があるときは、3メートル)まで縮小することができる。  
 a 普通道路にあっては、車道に接続する路肩の幅員(路上施設を設ける路肩の幅員から路上施設を設けるために必要な値を減じた値とし、当該値が1メートルを超える場合においては1メートルとする。)、小型道路にあっては、0.5メートル  
 b 普通道路にあってはH(3.8メートル未満の場合においては、3.8メートルとする。)から3.8メートルを減じた値、小型道路にあっては0.2メートル。  
 c及びd 分離帯に係るものにおいては、道路の区分に応じ、それぞれ次の表のcの欄及びdの欄に掲げる値、交通島に係るものにおいては、cは0.25メートル、dは0.5メートル。

区分		c (単位 メー	c (単位
		メートル)	メートル)
第1種	第1級	普通道路	1
		小型道路	0.5
	第2級	普通道路	1
		小型道路	0.5
	第3級及び第4級	普通道路	0.75
		小型道路	0.5

第2種	普通道路	0.25	0.5
	小型道路	0.25	0.5
第3種		0.25	0.5
第4種		0.25	0.5

e 車道に接続する路肩の幅員（路上施設を設ける路肩にあつては、路肩の幅員から路上施設を設けるのに必要な値を減じた値）

参酌すべき基準

（設計速度）  
第13条 道路（副道を除く。）の設計速度は、道路の区分に応じ、次の表の設計速度の欄の上欄に掲げる値とする。ただし、地形の状況その他の特別の理由によりやむを得ない場合においては、高速自動車国道である第1種第4級の道路を除き、同表の設計速度の欄の下欄に掲げる値とすることができる。

区 分		道路の設計速度（単位1時間につきキロメートル）	
第1種	第1級	120	100
	第2級	100	80
	第3級	80	60
	第4級	60	50
第2種	第1級	80	60
	第2級	60	50又は40
第3種	第1級	80	60
	第2級	60	50又は40
	第3級	50又は40	30
	第4級	40又は30	20
	第5級	30又は20	
第4種	第1級	60	50又は40
	第2級	50又は40	30
	第3級	40又は30	20
	第4級	40、30又は20	

2 副道の設計速度は、1時間につき、40キロメートル、30キロメートル又は20キロメートルとする。

（設計速度）  
第13条 道路（副道を除く。）の設計速度は、次の表に掲げる道路の区分に応じ、同表の道路設計速度の欄の左欄に掲げる値とする。ただし、地形の状況その他の特別の理由によりやむを得ない場合においては、同表の道路の設計速度の欄の右欄に掲げる値とすることができる。

道路の区分		道路の設計速度（単位1時間につきキロメートル）	
第3種	第2級	60	50又は40
	第3級	60、50又は40	30
	第4級	50、40又は30	20
	第5級	40、30又は20	
第4種	第1級	60	50又は40
	第2級	60、50又は40	30
	第3級	50、40又は30	20
	第4級	40、30又は20	

参酌すべき基準

本市の実態に該当しない基準の部分は、見え消しとした。

2 副道の設計速度は、1時間につき、40キロメートル、30キロメートル又は20キロメートルとする。

第14条 車道の屈曲部は、曲線形とするものとする。ただし、緩和区間（車両の走行を円滑ならしめるために車道の屈曲部に設けられる一定の区間をいう。以下同じ。）又は第31条の2の規定により設けられる屈曲部については、この限りでない。

（車道の屈曲部）  
第14条 車道の屈曲部は、曲線形とするものとする。ただし、緩和区間又は第31条の規定により設けられる屈曲部については、この限りでない。

参照すべき基準

（曲線半径）  
第15条 車道の屈曲部のうち緩和区間を除いた部分（以下「車道の曲線部」という。）の中心線の曲線半径（以下「曲線半径」という。）は、当該道路の設計速度に応じ、次の表の曲線半径の欄の上欄に掲げる値以上とするものとする。ただし、地形の状況その他の特別の理由によりやむを得ない箇所については、同表の曲線半径の欄の下欄に掲げる値まで縮小することができる。

（曲線半径）  
第15条 車線の屈曲部の中心線の曲線半径は、次の表に掲げる道路の設計速度に応じ、同表の曲線半径の欄の左欄に掲げる値以上とするものとする。ただし、地形の状況その他の特別の理由によりやむを得ない箇所については、同表の曲線半径の欄の右欄に掲げる値まで縮小することができる。

設計速度 (単位1時間につきキロメートル)	曲線半径 (単位メートル)	
120	710	570
400	460	380
80	280	230
60	150	120
50	100	80
40	60	50
30	30	
20	15	

道路の設計速度(単位1時間につきキロメートル)	曲線半径(単位メートル)		
60	150	120	
50	100	80	
40	60	50	
30	30		
20	15		

本市の実態に該当しない基準の部分は、見え消しとした。

（曲線部の片勾配）  
第16条 車道、中央帯（分離帯を除く。）及び車道に接続する路肩の曲線部には、曲線半径がきわめて大きい場合を除き、当該道路の区分及び当該道路の存する地域の積雪寒冷の度に応じ、かつ、当該道路の設計速度、曲線半径、地形の状況等を勘案し、次の表の最大片勾配の欄に掲げる値（第3種の道路で自転車等を設けないものにあつては、6パーセント）以下で適切な値の片勾配を附するものとする。ただし、第4種の道路にあつては、地形の状況その他の特別の理由によりやむを得ない場合においては、片勾配を附さないことができる。

（曲線部の片勾配）  
第16条 車道、中央帯（分離帯を除く。）及び車道に接続する路肩の曲線部には、曲線半径が極めて大きい場合を除き、次の表に掲げる道路の区分に応じ、かつ、当該道路の設計速度、曲線半径、地形の状況等を勘案し、同表の最大片勾配の欄に掲げる値（第3種の道路で自転車等を設けないものにあつては、6パーセント）以下で適切な値の片勾配を付するものとする。ただし、第4種の道路にあつては、地形の状況その他の特別の理由によりやむを得ない場合においては、片勾配を付さないことができる。

参照すべき基準

区分	道路の存する地域		最大勾配 (単位パーセント)	道路の区分	最大勾配(単位パーセント)	本市の実態に 該当しない基準 の部分は、見え 消しとした。																																
第1種、 第2種 及び第3 種	積雪寒冷地域	積雪寒冷の度がは なはだしい地域	6	第3種	10																																	
		その他の地域	8	第4種	6																																	
	その他の地域		10																																			
第4種			6																																			
<p>(曲線部の車線等の拡幅)</p> <p>第17条 車道の曲線部においては、設計車両及び当該曲線部の曲線半径に応じ、車線(車線を有しない道路にあっては、車道)を適切に拡幅するものとする。ただし、第2種及び第4種の道路にあっては、地形の状況その他の特別の理由によりやむを得ない場合においては、この限りでない。</p>				<p>(曲線部の車線等の拡幅)</p> <p>第17条 車道の曲線部においては、設計車両及び当該曲線部の曲線半径に応じ、車線(車線を有しない道路にあっては、車道)を適切に拡幅するものとする。ただし、第4種の道路にあっては、地形の状況その他の特別の理由によりやむを得ない場合においては、この限りでない。</p>																																		
<p>(緩和区間)</p> <p>第18条 車道の屈曲部には、緩和区間を設けるものとする。ただし、第4種の道路の車道の屈曲部にあっては、地形の状況その他の特別の理由によりやむを得ない場合においては、この限りでない。</p> <p>2 車道の屈曲部において片勾配を附し、又は拡幅をする場合においては、緩和区間においてすりつけをするものとする。</p> <p>3 緩和区間の長さは、当該道路の設計速度に応じ、次の表の下欄に掲げる値(前項の規定によるすりつけに必要な長さが同欄に掲げる値を超える場合においては、当該すりつけに必要な長さ)以上とするものとする。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>設計速度 (単位1時間につきキロメートル)</th> <th>緩和区間の長さ (単位メートル)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>120</td><td>100</td></tr> <tr><td>100</td><td>85</td></tr> <tr><td>80</td><td>70</td></tr> <tr><td>60</td><td>50</td></tr> <tr><td>50</td><td>40</td></tr> <tr><td>40</td><td>35</td></tr> <tr><td>30</td><td>25</td></tr> <tr><td>20</td><td>20</td></tr> </tbody> </table>				設計速度 (単位1時間につきキロメートル)	緩和区間の長さ (単位メートル)	120	100	100	85	80	70	60	50	50	40	40	35	30	25	20	20	<p>(緩和区間)</p> <p>第18条 車道の屈曲部には、緩和区間を設けるものとする。ただし、第4種の道路の車道の屈曲部にあっては、地形の状況その他の特別の理由によりやむを得ない場合においては、この限りでない。</p> <p>2 車道の屈曲部においては片勾配を付し、又は拡幅する場合においては、緩和区間においてすりつけをするものとする。</p> <p>3 緩和区間の長さは、次の表に掲げる道路の設計速度に応じ、同表の右欄に掲げる値(前項の規定によるすりつけに必要な長さが同欄に掲げる値を超える場合においては、当該すりつけに必要な長さ)以上とするものとする。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>道路の設計速度(単位1時間につきキロメートル)</th> <th>緩和区間の長さ(単位メートル)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>60</td><td>50</td></tr> <tr><td>50</td><td>40</td></tr> <tr><td>40</td><td>35</td></tr> <tr><td>30</td><td>25</td></tr> <tr><td>20</td><td>20</td></tr> </tbody> </table>				道路の設計速度(単位1時間につきキロメートル)	緩和区間の長さ(単位メートル)	60	50	50	40	40	35	30	25	20	20	参酌すべき 基準
設計速度 (単位1時間につきキロメートル)	緩和区間の長さ (単位メートル)																																					
120	100																																					
100	85																																					
80	70																																					
60	50																																					
50	40																																					
40	35																																					
30	25																																					
20	20																																					
道路の設計速度(単位1時間につきキロメートル)	緩和区間の長さ(単位メートル)																																					
60	50																																					
50	40																																					
40	35																																					
30	25																																					
20	20																																					

<p>(視距等) 第19条 視距は、当該道路の設計速度に応じ、次の表の下欄に掲げる値以上とするものとする。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>設計速度 (単位1時間につきキロメートル)</th> <th>緩和区間の長さ (単位メートル)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>120</td><td>240</td></tr> <tr><td>100</td><td>160</td></tr> <tr><td>80</td><td>110</td></tr> <tr><td>60</td><td>75</td></tr> <tr><td>50</td><td>55</td></tr> <tr><td>40</td><td>40</td></tr> <tr><td>30</td><td>30</td></tr> <tr><td>20</td><td>20</td></tr> </tbody> </table> <p>2 車線の数が2である道路(対向車線を設けない道路を除く。)においては、必要に応じ、自動車が進出を行うのに十分な見通しの確保された区間を設けるものとする。</p>	設計速度 (単位1時間につきキロメートル)	緩和区間の長さ (単位メートル)	120	240	100	160	80	110	60	75	50	55	40	40	30	30	20	20	<p>(視距等) 第19条 視距は、次の表に掲げる道路の設計速度に応じ、同表右欄に掲げる値以上とするものとする。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>道路の設計速度(単位1時間につきキロメートル)</th> <th>緩和区間の長さ(単位メートル)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>60</td><td>75</td></tr> <tr><td>50</td><td>55</td></tr> <tr><td>40</td><td>40</td></tr> <tr><td>30</td><td>30</td></tr> <tr><td>20</td><td>20</td></tr> </tbody> </table> <p>2 車線の数が2である道路(対向車線を設けない道路を除く。)においては、必要に応じ、自動車が進出を行うのに十分な見通しの確保された区間を設けるものとする。</p>	道路の設計速度(単位1時間につきキロメートル)	緩和区間の長さ(単位メートル)	60	75	50	55	40	40	30	30	20	20	<p>参酌すべき基準 本市の実態に該当しない基準の部分は、見え消しとした。</p>																																
設計速度 (単位1時間につきキロメートル)	緩和区間の長さ (単位メートル)																																																															
120	240																																																															
100	160																																																															
80	110																																																															
60	75																																																															
50	55																																																															
40	40																																																															
30	30																																																															
20	20																																																															
道路の設計速度(単位1時間につきキロメートル)	緩和区間の長さ(単位メートル)																																																															
60	75																																																															
50	55																																																															
40	40																																																															
30	30																																																															
20	20																																																															
<p>(縦断勾配) 第20条 車道の縦断勾配は、道路の区分及び道路の設計速度に応じ、次の表の縦断勾配の欄の上欄に掲げる値以下とするものとする。ただし、地形の状況その他の特別の理由によりやむを得ない場合においては、同表の縦断勾配の下欄に掲げる値以下とすることができる。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>設計速度 (単位1時間につきキロメートル)</th> <th colspan="2">縦断勾配 (単位メートル)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="8">第1種 、第2種 及び第3種</td> <td rowspan="8">普通道路</td> <td>120</td> <td>2</td> <td>5</td> </tr> <tr><td>100</td><td>3</td><td>6</td></tr> <tr><td>80</td><td>4</td><td>7</td></tr> <tr><td>60</td><td>5</td><td>8</td></tr> <tr><td>50</td><td>6</td><td>9</td></tr> <tr><td>40</td><td>7</td><td>10</td></tr> <tr><td>30</td><td>8</td><td>11</td></tr> <tr><td>20</td><td>9</td><td>12</td></tr> </tbody> </table>	区 分	設計速度 (単位1時間につきキロメートル)	縦断勾配 (単位メートル)		第1種 、第2種 及び第3種	普通道路	120	2	5	100	3	6	80	4	7	60	5	8	50	6	9	40	7	10	30	8	11	20	9	12	<p>(縦断勾配) 第20条 車道の縦断勾配は、次の表に掲げる道路の区分及び道路の設計速度に応じ、同表縦断勾配の欄の左欄に掲げる値以下とするものとする。ただし、地形の状況その他の特別の理由によりやむを得ない場合においては、同表縦断勾配の欄の右欄に掲げる値以下とすることができる。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">道路の区分</th> <th>設計速度(単位1時間につきキロメートル)</th> <th colspan="2">縦断勾配(単位パーセント)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="6">第3種</td> <td rowspan="6">普通道路</td> <td>60</td> <td>5</td> <td>8</td> </tr> <tr><td>50</td><td>6</td><td>9</td></tr> <tr><td>40</td><td>7</td><td>10</td></tr> <tr><td>30</td><td>8</td><td>11</td></tr> <tr><td>20</td><td>9</td><td>12</td></tr> <tr> <td rowspan="3">小型道路</td> <td>60</td> <td>8</td> <td></td> </tr> <tr><td>50</td><td>9</td><td></td></tr> <tr><td>40</td><td>10</td><td></td></tr> </tbody> </table>	道路の区分		設計速度(単位1時間につきキロメートル)	縦断勾配(単位パーセント)		第3種	普通道路	60	5	8	50	6	9	40	7	10	30	8	11	20	9	12	小型道路	60	8		50	9		40	10		<p>参酌すべき基準 本市の実態に該当しない基準の部分は、見え消しとした。</p>
区 分	設計速度 (単位1時間につきキロメートル)	縦断勾配 (単位メートル)																																																														
第1種 、第2種 及び第3種	普通道路	120	2	5																																																												
		100	3	6																																																												
		80	4	7																																																												
		60	5	8																																																												
		50	6	9																																																												
		40	7	10																																																												
		30	8	11																																																												
		20	9	12																																																												
道路の区分		設計速度(単位1時間につきキロメートル)	縦断勾配(単位パーセント)																																																													
第3種	普通道路	60	5	8																																																												
		50	6	9																																																												
		40	7	10																																																												
		30	8	11																																																												
		20	9	12																																																												
		小型道路	60	8																																																												
50	9																																																															
40	10																																																															

	小型道路	120	4	5
		100		6
		80		7
		60		8
		50		9
		40		10
		30		11
		20		12
第4種	普通道路	60	5	7
		50	6	8
		40	7	9
		30	8	10
		20	9	11
	小型道路	60	8	
		50	9	
		40	10	
		30	11	
		20	12	

—(登坂車線)—

第21条 普通道路の縦断勾配が5パーセント(高速自動車国道及び高速自動車以外の普通道路で設計速度が1時間につき100キロメートル以上であるもの)にあっては、3パーセント)を超える車道には、必要に応じ、登坂車線を設けるものとする。

2 登坂車線の幅員は、3メートルとするものとする。

(縦断曲線)

第22条 車道の縦断勾配が変移する箇所には、縦断曲線を設けるものとする。

2 縦断曲線の半径は、当該道路の設計速度及び当該縦断曲線の曲線形に応じ、次の表の縦断曲線の半径の欄に掲げる値以上とするものとする。ただし、設計速度が1時間につき60キロメートルである第4種第1級の道路にあっては、地形の状況その他の理由によりやむを得ない場合においては、凸形縦断曲線の半径を1,000メートルまで縮小することができる。

第4種	普通道路	30	11	
		20	12	
		60	5	7
		50	6	8
		40	7	9
		30	8	10
		20	9	11
		60	8	
	50	9		
	小型道路	40	10	
30		11		
20		12		

規定しない。

(縦断曲線)

第21条 車道の縦断勾配が変移する箇所には、縦断曲線を設けるものとする。

2 縦断曲線の半径は、次の表に掲げる道路の設計速度及び縦断曲線の曲線形に応じ、同表縦断曲線の半径の欄に掲げる値以上とするものとする。ただし、設計速度が1時間につき60キロメートルである第4種第1級の道路にあっては、地形の状況その他の特別の理由によりやむを得ない場合においては、凸形縦断曲線の半径を1,000メートルまで縮小することができる。

本市の実態に該当しない基準の部分は、見え消しとした。

参酌すべき基準



設計速度 (単位1時間につきキロメートル)	縦断曲線の曲線形	縦断曲線の半径 (単位メートル)
120	凸形曲線	11,000
	凹形曲線	4,000
100	凸形曲線	6,500
	凹形曲線	3,000
80	凸形曲線	3,000
	凹形曲線	2,000
60	凸形曲線	1,400
	凹形曲線	1,000
50	凸形曲線	800
	凹形曲線	700
40	凸形曲線	450
	凹形曲線	450
30	凸形曲線	250
	凹形曲線	250
20	凸形曲線	100
	凹形曲線	100

3 縦断曲線の長さは、当該道路の設計速度に応じ、次の表の下欄に掲げる値以上とするものとする。

設計速度 (単位1時間につきキロメートル)	縦断曲線の長さ (単位メートル)
120	100
100	85
80	75
60	50
50	40
40	35
30	25
20	20

設計速度(単位1時間につきキロメートル)	縦断曲線の曲線形	縦断曲線の半径 (単位メートル)
60	凸形曲線	1,400
	凹形曲線	1,000
50	凸形曲線	800
	凹形曲線	700
40	凸形曲線	450
	凹形曲線	450
30	凸形曲線	250
	凹形曲線	250
20	凸形曲線	100
	凹形曲線	100

3 縦断曲線の長さは、次の表に掲げる道路の設計速度に応じ、同表縦断曲線の長さの欄に掲げる値以上とするものとする。

道路の設計速度(単位1時間につきキロメートル)	縦断曲線の長さ(単位メートル)
60	50
50	40
40	35
30	25
20	20

本市の実態に該当しない基準の部分は、見え消しとした。

(舗装)  
第23条 車道、中央帯(分離帯を除く。)車道に接続する路肩、自転車道等及び歩道は、舗装するものとする。ただし、交通量が極めて少ない等特別の理由がある場合においては、この限りでない。

2 車道及び側帯の舗装は、その設計に用いる自動車の輪荷重の基準を49キロニュートンとし、計画交通量、自動車の重量、路床の状態、気象状況等を勘案して、自動車の安全かつ円滑な交通を確保することができるものとして国土交通省令で定める基準に適合する構造とするものとする。ただし、自動車の交通量が少ない場合その他の特別の理由がある場合においては、この限りでない。

3 第4種の道路(トンネルを除く。)の舗装は、当該道路の存する地域、沿道の土地利用及び自動車の交通の状況を勘案して必要がある場合においては、雨水を道路の路面下に円滑に浸透させ、かつ、道路交通騒音の発生を減少させることができる構造とするものとする。ただし、道路の構造、気象状況その他の特別の理由によりやむを得ない場合においては、この限りでない。

(舗装)  
第22条 車道、中央帯(分離帯を除く。)車道に接続する路肩、自転車道等及び歩道は、舗装するものとする。ただし、交通量が極めて少ない等特別の理由がある場合においては、この限りでない。

2 車道及び側帯の舗装は、その設計に用いる自動車の輪荷重の基準を49キロニュートンとし、計画交通量、自動車の重量、路床の状態、気象状況等を勘案して、自動車の安全かつ円滑な交通を確保することができるものとして車道及び側帯の舗装の構造の基準に関する省令(平成13年国土交通省令第103号)で定める基準に適合する構造とするものとする。ただし、自動車の交通量が少ない場合その他の特別の理由がある場合においては、この限りでない。

3 第4種の道路の舗装は、当該道路の存する地域、沿道の土地利用及び自動車の交通の状況を勘案して必要がある場合においては、雨水を道路の路面下に円滑に浸透させ、かつ、道路交通騒音の発生を減少させることができる構造とするものとする。ただし、道路の構造、気象状況その他の特別の理由によりやむを得ない場合においては、この限りでない。

(横断勾配)  
第24条 車道、中央帯(分離帯を除く。)及び車道に接続する路肩には、片勾配を付する場合を除き、路面の種類に応じ、次の表の下欄に掲げる値を標準として横断勾配を付するものとする。

路面の種類	横断勾配(単位パーセント)
前項第2項に規定する基準に適合する舗装道	1.5以上 2以下
その他	3以上 5以下

2 歩道又は自転車等には、2パーセントを標準として横断勾配を附するものとする。

(横断勾配)  
第23条 車道、中央帯(分離帯を除く。)及び車道に接続する路肩には、片勾配を付する場合を除き、次の表に掲げる路面の種類に応じ、同表の横断勾配の欄に掲げる値を標準として横断勾配を付するものとする。

路面の種類	横断勾配(単位パーセント)
前項第2項に規定する基準に適合する舗装道	1.5以下 2.0以上
その他	3.0以上 5.0以下

2 歩道又は自転車等には、2パーセントを標準として横断勾配を付するものとする。

<p>3 前条第3項本文に規定する構造の舗装道にあっては、気象状況等を勘案して路面の排水に支障がない場合においては、横断勾配を附さず、又は縮小することができる。</p>	<p>3 前条第3項本文に規定する構造の舗装道にあっては、気象状況等を勘案して路面の排水に支障がない場合においては、横断勾配を付さず、又は縮小することができる。</p>																							
<p>(合成勾配) 第25条 合成勾配は(縦断勾配と片勾配又は横断勾配と合成した勾配という。以下同じ。)は、当該道路の設計速度に応じ、次の表の下欄に掲げる値以下とするものとする。ただし、設計速度が1時間につき30キロメートル又は20キロメートルの道路にあっては、地形の状況その他の特別の理由によりやむを得ない場合においては、12.5パーセント以下とすることができる。</p> <table border="1" data-bbox="161 644 1050 1043"> <thead> <tr> <th>設計速度 (単位1時間につきキロメートル)</th> <th>合成勾配 (単位パーセント)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>120</td><td rowspan="2">40</td></tr> <tr><td>100</td></tr> <tr><td>80</td><td rowspan="3">10.5</td></tr> <tr><td>60</td></tr> <tr><td>50</td></tr> <tr><td>40</td><td rowspan="4">11.5</td></tr> <tr><td>30</td></tr> <tr><td>20</td></tr> </tbody> </table> <p><del>2 積雪寒冷の度が生ずる地域に存する道路にあっては、合成勾配は、8パーセント以下とするものとする。</del></p>	設計速度 (単位1時間につきキロメートル)	合成勾配 (単位パーセント)	120	40	100	80	10.5	60	50	40	11.5	30	20	<p>(合成勾配) 第24条 合成勾配は、次の表に掲げる道路の設計速度に応じ、同表の右欄に掲げる値以下とするものとする。ただし、道路の設計速度が1時間につき30キロメートルの道路にあっては、地形の状況その他の特別の理由によりやむを得ない場合においては、12.5パーセント以下とすることができる。</p> <table border="1" data-bbox="1084 644 1973 935"> <thead> <tr> <th>道路の設計速度(単位1時間につきキロメートル)</th> <th>合成勾配(単位パーセント)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>60</td><td>10.5</td></tr> <tr><td>50</td><td rowspan="4">11.5</td></tr> <tr><td>40</td></tr> <tr><td>30</td></tr> <tr><td>20</td></tr> </tbody> </table>	道路の設計速度(単位1時間につきキロメートル)	合成勾配(単位パーセント)	60	10.5	50	11.5	40	30	20	<p>本市の実態に該当しない基準の部分は、見え消しとした。</p>
設計速度 (単位1時間につきキロメートル)	合成勾配 (単位パーセント)																							
120	40																							
100																								
80	10.5																							
60																								
50																								
40	11.5																							
30																								
20																								
道路の設計速度(単位1時間につきキロメートル)		合成勾配(単位パーセント)																						
60	10.5																							
50	11.5																							
40																								
30																								
20																								
<p>(排水施設) 第26条 道路には、排水のため必要がある場合においては、側溝、街渠、集水ますその他の適当な排水施設を設けるものとする。</p> <p>(平面交差又は接続) 第27条 道路は、駅前広場等特別の箇所を除き、同一箇所において同一平面で5以上交差させてはならない。</p>	<p>(排水施設) 第25条 道路には、排水のため必要がある場合においては、側溝、<sup>がけ溝</sup>街渠、集水ますその他の適当な排水施設を設けるものとする。</p> <p>(平面交差又は接続) 第26条 道路は、駅前広場等特別の箇所を除き、同一箇所において同一平面で5以上交差させてはならない。</p>	<p>参酌すべき基準</p>																						

<p>2 道路が同一平面で交差し、又は接続する場合においては、必要に応じ、屈折車線、変速車線若しくは交通島を設け、又は隅角部を切り取り、かつ、適当な見通しができる構造とするものとする。</p> <p>3 屈折車線又は変速車線を設ける場合においては、当該部分の車線（屈折車線及び変速車線を除く。）の幅員は、第4種第1級の普通道路にあっては3メートルまで、第4種第2級又は第3級の普通道路にあっては、2.75メートルまで、第4種の小型道路にあっては2.5メートルまで縮小することができる。</p> <p>4 屈折車線及び変速車線の幅員は、普通道路にあっては3メートル、小型道路にあっては2.5メートルを標準とするものとする。</p> <p>5 屈折車線又は変速車線を設ける場合においては、当該道路の設計速度に応じ、適切にすりつけをするものとする。</p>	<p>2 道路が同一平面で交差し、又は接続する場合においては、必要に応じ、屈折車線、変速車線若しくは交通島を設け、又は隅角部を切り取り、かつ、適当な見通しができる構造とするものとする。</p> <p>3 屈折車線又は変速車線を設ける場合においては、当該車線を設ける部分の車線（屈折車線及び変速車線を除く。）の幅員は、第4種第1級の普通道路にあっては3メートルまで、第4種第2級又は第3級の普通道路にあっては2.75メートルまで、第4種の小型道路にあっては2.5メートルまで縮小することができる。</p> <p>4 屈折線及び変速車線の幅員は、普通道路にあっては3メートル、小型道路にあっては2.5メートルを標準とするものとする。</p> <p>5 屈折車線又は変速車線を設ける場合においては、当該道路の設計速度に応じ、適切にすりつけをするものとする。</p>	
<p>（立体交差）</p> <p>第28条 車線（登坂車線—屈折車線及び変速車線を除く。）の数が4以上である普通道路が相互に交差する場合においては、当該交差の方式は、立体交差とするものとする。ただし、交通の状況により不適当なとき又は地形の状況により不適当なとき又は地形の状況その他の特別の理由によりやむを得ないときは、この限りで</p> <p>2 車線（屈折車線及び変速車線を除く。）の数が4以上である小型道路が相互に交差する場合及び普通道路と小型道路が交差する場合においては、当該交差の方式は、立体交差とするものとする。</p> <p>3 道路を立体交差とする場合においては、必要に応じ、交差する道路を相互に連結する道路（以下「連結路」という。）を設けるものとする。</p> <p>4 連結路については、第5条から第8条まで、第12条、第13条、第15条、第16条、第18条から第20条まで、第22条及び第25条の規定は、適用しない。</p>	<p>（立体交差）</p> <p>第27条 車線（屈折車線及び変速車線を除く。）の数が4以上である普通道路が相互に交差する場合においては、当該交差の方式は、立体交差とするものとする。ただし、交通の状況により不適当なとき又は地形の状況その他の特別の理由によりやむを得ないときは、この限りでない。</p> <p>2 車線（屈折車線及び変速車線を除く。）の数が4以上である小型道路が相互に交差する場合及び普通道路と小型道路が交差する場合においては、当該交差の方式は、立体交差とするものとする。</p> <p>3 道路を立体交差とする場合においては、必要に応じ、連結路を設けるものとする。</p> <p>4 連結路については、第3条から第6条まで、第13条、第15条、第16条、第18条から第21条まで及び第24条の規定は、適用しない。</p>	

参酌すべき  
基準

(鉄道等との平面交差)

第29条 道路が鉄道又は軌道法(大正10年法律第76号)による新設軌道(以下「鉄道等」という。)と同一平面で交差する場合には、その交差する道路は次に定める構造とするものとする。

- 一 交差角は、45度以上とすること。
- 二 踏切道の両側からそれぞれ30メートルまでの区間は、踏切道を含めて直線とし、その区間の車道の縦断勾配は、2.5パーセント以下とすること。ただし、自動車の交通量がきわめて少ない箇所又は地形の状況その他の特別の理由によりやむを得ない箇所については、この限りでない。
- 三 見とおし区間の長さ(路線の最縁端軌道の中心線と車道の中心線との交差点から、軌道の外方車線の中心線上5メートルの地点における1.2メートルの高さにおいて見とおすことができる軌道の中心線上当該交差からの長さをいう。)は、踏切道における鉄道等の車両の最高速度に応じ、次の表の下欄に掲げる値以上とすること。ただし、踏切遮断機その他の保安設備が設置される箇所又は自動車の交通量及び鉄道等の運転回数がきわめて少ない箇所については、この限りでない。

踏切道における鉄道等の車両の最高速度(単位1時間につきキロメートル)	見とおし区間の長さ(単位メートル)
50未満	110
50以上 70未満	160
70以上 80未満	200
80以上 90未満	230
90以上 100未満	260
100以上 110未満	300
110以上	350

(鉄道等の平面交差)

第28条 道路が鉄道と同一平面で交差する場合には、その交差する道路は次の各号に定める構造とするものとする。

- (1) 交差角、45度以上とすること。
- (2) 踏切道の両側からそれぞれ30メートルまでの区間は、踏切道を含めて直線とし、その区間の車道の縦断勾配は、2.5パーセント以下とすること。ただし、自動車の交通量が極めて少ない箇所又は地形の状況その他の特別の理由によりやむを得ない箇所については、この限りでない。
- (3) 見とおし区間の長さは、次の表について掲げる踏切道における鉄道の車両の最高速度に応じ、同表見とおし区間の長さの欄に掲げる値以上とすること。ただし、踏切遮断機その他の保安設備が設置される箇所又は自動車の交通量及び鉄道等の運転回数が極めて少ない箇所については、この限りでない。

踏切道における鉄道等の車両の最高速度(単位1時間につきキロメートル)	見通し区間の長さ(単位メートル)
50未満	110
50以上 70未満	160
70以上 80未満	200
80以上 90未満	230
90以上 100未満	260
100以上 110未満	300
110以上	350

<p>(待避所)</p> <p>第30条 第3種第5級の道路には、次に定めるところにより、待避所を設けるものとする。ただし、交通に及ぼす支障が少ない道路については、この限りでない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一 待避所相互間の距離は、300メートル以内とすること。</li> <li>二 待避所相互間の道路の大部分が待避所から見とおすことができること。</li> <li>三 待避所の長さは、20メートル以上とし、その区間の車道の幅員は、5メートル以上とすること。</li> </ul>	<p>(待避所)</p> <p>第29条 第3種第5級の道路には、次の各号に定めるところにより、待避所を設けるものとする。ただし、交通に及ぼす支障が少ない道路については、この限りでない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 待避所相互間の距離は、300メートル以内とすること。</li> <li>(2) 待避所相互間の道路の大部分が待避所から見通すことができること。</li> <li>(3) 待避所の長さは、20メートル以上とし、その区間の車道の幅員は、5メートル以上とすること。</li> </ul>	
<p>(交通安全施設)</p> <p>第31条 交通事故の防止を図るため必要がある場合においては、横断歩道橋等、さく、照明施設、視線誘導標、緊急連絡施設その他これらに類する施設で国土交通省令で定めるものを設けるものとする。</p>	<p>(交通安全施設)</p> <p>第30条 交通事故の防止を図るため必要がある場合においては、横断歩道橋等、柵、照明施設、視線誘導標、緊急連絡施設その他これらに類する施設で規則で定めるものを設けるものとする。</p>	
<p>(凸部、狹窄部等)</p> <p>第31条の2 第4種第4級の道路又は主として近隣に居住する者の利用に供する第3種第5級の道路には、自動車を減速させて歩行者又は自転車の安全な通行を確保する必要がある場合においては、車道及びこれに接続する路肩の路面に凸部を設置し、又は車道に狹窄部若しくは屈曲部を設けるものとする。</p>	<p>(凸部、狹窄部等)</p> <p>第31条 主として近隣に居住する者の利用に供する第3種第5級又は第4種第4級の道路には、自動車を減速させて歩行者又は自転車の安全な通行を確保する必要がある場合においては、車道及びこれに接続する路肩の路面に凸部を設置し、又は車道に狹窄部若しくは屈曲部を設けるものとする。</p>	
<p>(乗合自動車の停留所等に設ける交通島)</p> <p>第31条の3 自転車道、自転車歩行者道又は歩道に接続しない乗合自動車の停留所又は路面電車の停留場には、必要に応じ、交通島を設けるものとする。</p>	<p>(乗合自動車の停留所等に設ける交通島)</p> <p>第32条 自転車道、自転車歩行者道又は歩道に接続しない乗合自動車の停留所には、必要に応じ、交通島を設けるものとする。</p>	
<p>(自動車駐車場等)</p> <p>第32条 安全かつ円滑な交通を確保し、又は公衆の利便に資するため必要がある場合においては、自動車駐車場、自転車駐車場、乗合自動車停車所、非常駐車帯その他これらに類する施設で国土交通省令で定めるものを設けるものとする。</p>	<p>(自動車駐車場等)</p> <p>第33条 安全かつ円滑な交通を確保し、又は公衆の利便に資するため必要がある場合においては、自動車駐車場、自転車駐車場、乗合自動車停車所、非常駐車帯その他これらに類する施設で規則で定めるものを設けるものとする。</p>	

<p>(防雪施設その他の防護施設)</p> <p>第33条 <del>なだれ、飛雪又は積雪により交通に支障を及ぼすおそれがある箇所には、雪覆工、融雪施設その他これらに類する施設で国土交通省令で定めるものを設けるものとする。</del></p> <p>2 <del>前項に規定する場合を除くほか、落石、崩壊、波浪等により交通に支障を及ぼし、又は道路の構造に損傷を与えるおそれがある箇所には、さく、擁壁その他の適用な防護施設を設けるものとする。</del></p>	<p>(防護施設)</p> <p>第34条 落石、崩壊等により交通に支障を及ぼし、又は道路の構造に損傷を与えるおそれがある箇所には、柵、擁壁その他の適当な防護施設を設けるものとする。</p>	<p>参酌すべき基準</p> <p>本市の実態に該当しない基準の部分は、見え消しとした。</p>
<p>(トンネル)</p> <p>第34条 <del>トンネルには、安全かつ円滑な交通を確保するため必要がある場合においては、当該道路の計画交通量及びトンネルの長さに応じ、適当な換気施設を設けるものとする。</del></p> <p>2 <del>トンネルには、安全かつ円滑な交通を確保するため必要がある場合においては、当該道路の設計速等を勘案して、適当な照明施設を設けるものとする。</del></p> <p>3 <del>トンネルにおける車両の火災その他の事故により交通に危険を及ぼすおそれがある場合においては、必要に応じ、通報施設、消火施設その他の非常用施設を設けるものとする。</del></p>		<p>本市の実態に該当しない基準の部分は、見え消しとした。</p>
<p>(橋、高架の道路等)</p> <p>第35条 橋、高架の道路その他これらに類する構造の道路は、鋼構造、コンクリート構造又はこれらに準ずる構造とするものとする。</p> <p>2 <del>橋、高架の道路その他これらに類する構造の普通道路は、その設計に用いる設計自動車荷重を245キロニュートンとし、当該橋、高架の道路その他これらに類する構造の普通道路における大型の自動車の交通の状況を勘案して、安全な交通を確保することができる構造とするものとする。</del></p> <p>3 <del>橋、高架の道路その他これらに類する構造の小型道路は、その設計自動車荷重を30キロニュートンとし、当該橋、高架の道路その他これに類する構造の小型道路における小型自動車等の交通の状況を勘案して、安全な交通を確保することができる構造とするものとする。</del></p>	<p>(橋、高架の道路等)</p> <p>第35条 橋、高架の道路その他これらに類する構造の道路は、鋼構造、コンクリート構造又はこれらに準ずる構造とするものとする。</p> <p>2 前項に規定するもののほか、橋、高架の道路その他これらに類する構造の道路の構造の基準に関し必要な事項は、規則で定める。</p>	<p>本市の実態に該当しない基準の部分は、見え消しとした。</p>

<p>4 前3項に規定するもののほか、橋、高架の道路その他これらに類する構造の道路の構造の基準に関し必要な事項は、国土交通省令で定める。</p>		
<p>( 附帯工事等の特例 )  第36条 道路に関する工事により必要を生じた他の道路に関する工事を施行し、又は道路に関する工事以外の工事により必要を生じた道路に関する工事を施行する場合において、第4条から前条までの規定(第8条、第13条、第14条、第24条、第31条及び第33条を除く。)による基準をそのまま適用することが適当でないと認められるときは、これらの規定による基準によらないことができる。</p>	<p>( 附帯工事等の特例 )  第36条 道路に関する工事により必要を生じた他の道路に関する工事を施行し、又は道路に関する工事以外の工事により必要を生じた道路に関する工事を施行する場合において、第3条から前条までの規定(第6条、第13条、第14条、第23条、第25条、第30条及び第34条の規定を除く。)による基準をそのまま適用することが適当でないと認められるときは、これらの規定による基準によらないことができる。</p>	
<p>( 区分が変更される道路の特例 )  第37条 一般国道の区域を変更し、当該変更に係る部分を都道府県道若しくは市町村道とする計画がある場合又は都道府県道の区域を変更し、当該変更に係る部分を市町村道とする計画がある場合において、当該部分を当該他の道路とすることにより第3条第2項の規定による区分が変更されることとなるときは、同条第4項及び第5項、第4条、第5条、第6条第1項、第9条第1項、第10条の2第3項、第11条第1項、第2項及び第4項、第11条の4第1項、第12条、第13条第1項、第16条、第17条、第18条第1項、第20条、第22条第2項、第23条第3項、第27条第3項、第30条並びに第31条の2の規定の適用については、当該変更後の区分を当該部分の区分とみなす。この場合において、第5条第1項ただし書及び第5項、第10条の2第3項ただし書、第11条第4項ただし書並びに第12条中「第3種第5級」とあるのは「第3種第5級又は第4種第4級」と、第5条第3項中「及び第3種第5級」とあるのは「並びに第3種第5条第3項中「及び第3種第5級」とあるのは「並びに第3種第5級及び第4種第4級」と、第9条第1項及び第11条第1項中「第4種」とあるのは「第4種(第4級を除く。)」と、同項中「第3種」とあるのは「第3種若しくは第4種第4級の」と、同条第2項中「第3種」とあるのは「第3種又は第4種第4級」と第13条第1項中「上欄に掲げる値」とあるのは「上欄に掲げる値(当該道路が第4種第4級の道路である場合にあっては、1時間につき40キロメートル、30キロメートル又は20キロメー</p>	<p>( 区分が変更される道路の特例 )  第37条 県道の区域を変更し、当該変更に係る部分を市道とする計画がある場合において、当該県道を当該市道とすることにより変更されることとなるときは、第3条、第4条第2項及び第4項、第6条第2項から第4項まで及び第7項、第7条第1項、第9条第3項、第10条第1項、第2項及び第4項、第12条第1項、第13条第1項、第16条、第17条、第18条第1項、第20条、第21条第2項、第22条第3項、第26条第3項、第29条並びに第31条の規定の適用については、当該変更後の区分を当該県道の区分とみなす。この場合において、同条中「第3種第5級」とあるのは、「第3種第5級又は第4種第4級」と読み替えるものとする。</p>	<p>参酌すべき基準</p>



<p>トル)」と、第31条の2中「主として」とあるのは「第4種第4級の道路又は主として」と読み替えるものとする。</p>		
<p>(小区間改築の場合の特例)</p> <p>第38条 道路の交通に著しい支障がある小区間について応急措置として改築を行う場合(次項に規定する改築を行う場合を除く。)において、これに隣接する他の区間の道路の構造が、第5条、第6条第4項から第6項まで、第7条、第9条、第9条の2、第10条第3項、第10条の2第2項及び第3項、第11条第3項及び第4項、第11条の4第2項及び第3項、第15条から第22条まで、第23条第3項並びに第25条の規定による基準に適合していないためこれらの規定による基準をそのまま適用する事が適当でない認められるときは、これらの規定による基準によらないことができる。</p> <p>2 道路の交通の安全の保持に著しい支障がある小区間について応急措置として改築を行う場合において、当該道路の状況からみて第5条、第6条第4項から第6項まで、第7条、第8条第2項、第9条、第9条の2、第10条第3項、第10条の2第2項及び第3項、第11条第3項及び第4項、第11条の4第2項及び第3項、第19条第1項、第21条第2項、第23条第3項、次条第1項及び第2項並びに第40条第1項の規定による基準をそのまま適用することが適当でない認められるときは、これらの規定による基準によらないことができる。</p>	<p>(小区間改築の場合の特例)</p> <p>第38条 道路の交通に著しい支障がある小区間について応急措置として改築を行う場合(次項に規定する改築を行う場合を除く。)において、これに隣接する他の区間の道路の構造が、第3条、第4条第2項から第4項まで、第5条、第7条、第8条第3項、第9条第2項及び第3項、第10条第3項及び第4項、第12条第2項及び第3項、第15条から第21条まで、第22条第3項並びに第24条の規定による基準に適合していないためこれらの規定による基準をそのまま適用することが適当でない認められるときは、これらの規定による基準によらないことができる。</p> <p>2 道路の交通の安全の保持に著しい支障がある小区間について応急措置として改築を行う場合において、当該道路の状況等からみて第3条、第4条第2項から第4項まで、第5条、第6条第2項、第7条、第8条第3項、第9条第2項及び第3項、第10条第3項及び第4項、第12条第2項及び第3項、第19条第1項、第22条第3項、次条第1項及び第2項並びに第40条第1項の規定による基準をそのまま適用することが適当でない認められるときは、これらの規定による基準によらないことができる。</p>	<p>参酌すべき基準</p>
<p>(自転車専用道路及び自転車歩行者専用道路)</p> <p>第39条 自転車専用道路の幅員は3メートル以上とし、自転車歩行者専用道路の幅員は4メートル以上とするものとする。ただし、自転車専用道路にあつては、地形の状況その他の特別の理由によりやむを得ない場合においては、2.5メートルまで縮小することができる。</p> <p>2 自転車専用道路又は自転車歩行者専用道路には、その各側に、当該道路の部分として、幅員0.5メートル以上の側方余裕を確保するための部分を設けるものとする。</p>	<p>(自転車専用道路及び自転車歩行者専用道路)</p> <p>第39条 自転車専用道路の幅員は3メートル以上とし、自転車歩行者専用道路の幅員は4メートル以上とするものとする。ただし、自転車専用道路にあつては、地形の状況その他の特別の理由によりやむを得ない場合においては、2.5メートルまで縮小することができる。</p> <p>2 自転車専用道路又は自転車歩行者専用道路には、その各側に、当該道路の部分として、幅員0.5メートル以上の側方余裕を確保するため部分を設けるものとする。</p>	

<p>3 自転車専用道路又は自転車歩行者専用道路に路上施設を設ける場合においては、当該自転車専用道路又は自転車歩行者専用道路の幅員は、次項の建築限界を勘案して定めるものとする。</p> <p><del>4 自転車専用道路及び自転車歩行者専用道路の建築限界は、次の図に示すところによるものとする。</del>  <del>(図：省略)</del></p> <p>5 自転車専用道路及び自転車歩行者専用道路の線形、勾配その他の構造は、自転車及び歩行者が安全かつ円滑に通行することができるものでなければならない。</p> <p>6 自転車専用道路及び自転車歩行者専用道路については、第3条から第37条まで及び前条第1項の規定（自転車歩行者専用道路にあっては、第11条の2を除く。）は、適用しない。</p>	<p>3 自転車専用道路又は自転車歩行者専用道路に路上施設を設ける場合においては、当該自転車専用道路又は自転車歩行者専用道路の幅員は、政令第39条第4項に定める建築限界を勘案して定めるものとする。</p> <p>4 自転車専用道路及び自転車歩行者専用道路の線形、勾配その他の構造は、自転車及び歩行者が安全かつ円滑に通行することができるものでなければならない。</p> <p>5 自転車専用道路及び自転車歩行者専用道路については、第3条から第37条まで及び前条第1項の規定（自転車歩行者専用道路にあっては、第11条の規定を除く。）は、適用しない。</p>	<p>本市の実態に該当しない基準の部分は、見え消しとした。</p>
<p>(歩行者専用道路)  第40条 歩行者専用道路の幅員は、当該道路の存する地域及び歩行者の交通の状況を勘案して、2メートル以上とするものとする。</p> <p>2 歩行者専用道路に路上施設を設ける場合においては、当該歩行者専用道路の幅員は、次項の建築限界を勘案して定めるものとする。</p> <p><del>3 歩行者専用道路の建築限界は、次の図に示すところによるものとする。</del>  <del>(図：省略)</del></p> <p>4 歩行者専用道路の線形、勾配その他の構造は、歩行者が安全かつ円滑に通行することができるものでなければならない。</p> <p>5 歩行者専用道路については、第3条から第11条まで、第11条の3から第37条まで及び第38条第1項の規定は、適用しない。</p>	<p>(歩行者専用道路)  第40条 歩行者専用道路の幅員は、当該道路の存する地域及び歩行者の交通の状況を勘案して、2メートル以上とするものとする。</p> <p>2 歩行者専用道路に路上施設を設ける場合においては、当該歩行者専用道路の幅員は、政令第40条第3項に定める建築限界を勘案して定めるものとする。</p> <p>3 歩行者専用道路の線形、勾配その他の構造は、歩行者が安全かつ円滑に通行することができるものでなければならない。</p> <p>4 歩行者専用道路については、第3条から第10条まで、第12条から第37条まで及び第38条第1項の規定は、適用しない。</p>	<p>本市の実態に該当しない基準の部分は、見え消しとした。</p>

(都道府県道及び市町村道の一般的技術的基準等)

第41条 都道府県道又は市町村道を新設し、又は改築する場合におけるこれらの道路の構造の一般的技術的基準については、第4条、第12条、第35条第2項、第3項及び第4項(法第30条第1項第12号に掲げる事項に係る部分に限る。)、第39条第4項並びに前条第3項の規定を準用する。この場合において、第12条中「第3種5級」とあるのは、「第3種第5級又は第4種第4級」と読み替えるものとする。

2 法第30条第3項の政令で定める基準については、第5条から第11条の4まで、第13条から第34条まで、第35条第1項及び第4項(法第30条第12号に掲げる事項に係る部分を除く。)、第36条から第38条まで、第39条第1項から第3項まで、第5項及び第6項並びに前条第1項、第2項、第4項及び第5項の規定を準用する。

この場合において、第5条第1項ただし書及び第5項、第10条の2第3項ただし書並びに第11条第4項ただし書中「第3種第5級」とあるのは「第3種第5級又は第4種第4級」と、第5条第3項中「及び第3種第5級」とあるのは「並びに第3種第5級及び第4種第4級」と、第9条第1項及び第11条第1項中「第4種」とあるのは「第4種(第4級を除く。)」と、同項中「第3種の」とあるのは「第3種若しくは第4種第4級の」と、同条第2項中「第3種とあるのは「第3種又は第4種第4級」と、第13条第1項中「上欄に掲げる値」とあるのは「上欄に掲げる値(当該道路が第4種第4級の道路である場合にあっては、一時間につき40キロメートル、30キロメートル又は20キロメートル)」と、第31条の2中「主として」とあるのは「第4種第4級の道路又は主として」と、第37条中「一般国道」とあるのは「都道府県道」と、「都道府県道又は主として」と、第37条中「一般国道」とあるのは「都道府県道」と「都道府県道又は市町村道」とあり、及び「他の道路」とあるのは「市町村道」と、「当該部分」とあるのは「当該部分」とあるのは「当該都道府県道」と読み替えるものとする。

附 則 抄

(施行期日)

1 この政令は、昭和46年4月1日から施行する。

附 則

この条例は、平成25年4月1日から施行する。

(道路構造令の廃止)

- 2 道路構造令(昭和33年政令第244号)は、廃止する。

附 則(昭和46年3月31日政令第90号) 抄

(施行期日)

- 1 この政令は、昭和46年4月1日から施行する。

附 則(昭和46年7月22日政令第252号) 抄

(施行期日等)

- 1 この政令は、道路法の一部を改正する法律(昭和46年法律第46号)の施行の日(昭和46年12月1日)から施行する。

附 則(昭和51年3月31日政令第61号) 抄

(施行期日)

- 1 この政令は、昭和51年4月1日から施行する。

附 則(昭和57年9月25日政令第256号) 抄

(粗鋼期日)

- 1 この政令は、昭和57年10月1日から施行する。

(経過措置)

- 2 この政令の施行の際現に新設又は改築の工事中の道路については、改正後の規定に適合しない部分がある場合においては、当該部分に対しては、当該規定は、適用しない。この場合においては、当該規定に相当する改正前の規定があるときは、当該部分に関しては、なお従前の例による。

附 則(昭和61年3月31日政令第64号) 抄

(施行期日)

- 1 この政令は公布日から施行する。

(道路構造令の一部改正に伴う経過措置)

- 2 この政令の施行の際現に新設又は改築の工事中の道路については、第1条の規定による改正後の道路構造令の規定に適合しない部分がある場合においては、当該部分に対しては、当該規定は、適用しない。この場合において、当該規定に相当する同条の規定による改正前の道路構造令の規定があるときは、当該部分に関し

ては、なお従前の例による。

3 この政令の施行にした行為に対する法律（平成11年法律第8号）の施行の日（平成13年1月6日）から施行する。

附 則（平成13年4月25日政令第170号） 抄

（施行期日）

第1条 この条例は、平成13年7月1日から施行する。

（経過措置）

第2条 この政令の施行の際現に新設又は改築の工事中の道路については、改正後の規定に適合しない部分がある場合においては、当該部分に対しては、当該規定は適用しない。この場合において、当該規定に相当する改正前の規定があるときは、当該部分に関しては、なお従前の例による。

附 則（平成15年7月24日政令第321号） 抄

（施行期日）

第1条 この政令は、公布のひから施行する。

附 則（平成23年12月26日政令第424号） 抄

（施行期日）

第1条 この政令は、平成24年4月1日から施行する。